



農林水産大臣賞典 第58回 不来方賞(Jpn II)

盛岡競馬場／3歳・ダート2000m

9月1日(火)第10競走 17:05発走

不来方賞は1969年、岩手競馬として初めて固有のレース名が付けられた5競走のひとつ・不来方賞典を祖として岩手の重賞の中でも最も古い歴史を持ちます。早くから3歳馬(旧4歳馬)の重要な一戦と位置づけられただけでなく不来方賞が“岩手のダービー”とも目されていただけに、過去の勝ち馬にはその時代・その世代を代表する馬たちの名が並んでいます。

2024年、新しい3歳ダートクラシック路線の整備に伴って全国交流重賞・JpnIIIに格付け。最も古い歴史を持つ不来方賞が最も新しい歴史のページを重ね始めました。

■ロジータサンライズ(牡3 岩手・齋藤雄一厩舎)



東北優駿の際のこの「見どころ」では“重賞で5回戦って5着以下は無しという点は覚えておきたい”と評価した本馬だったがその東北優駿では6着、以降の重賞でも2戦6着・9着。着順もだが距離が伸びてタイム差が広がっているのが気になるところで、これも以前触れたが距離面での課題が本馬の前に立ちはだかる壁になっているようだ。ただ1400mのウイナーカップで掲示板争いに加わっているように地力は決して低くないのは確か…という点には触れておきたい。

状態面は近走と変わりなく来ています。ここはひとつでも上の着順を目指して頑張ってもらいたいです。(齋藤雄一調教師)

■イッテラッシャイ(牡3 JRA・齋藤誠厩舎)



昨年2着のハグ、一昨年2着のカシマエスパーダ。いずれも鳳雛Sを制したのちに不來方賞に挑んだ馬たちだ。元々3歳ダートの登竜門的な鳳雛Sだったがこの2年は不來方賞との繋がりが明確に見えている。本馬も今年の鳳雛Sを、先の2頭よりも高速タイムで勝ってきているとなれば期待値が高まるのは当然。ダート三冠戦線の上位馬が参戦してきた今年はこれまでとは前提条件が異なるが、彼もいずれは海外へ打って出ようと狙っている馬、自身の力量を証明しておきたいところ。

2000mを意識して折り合いとコントロールの部分を中心に調整してきました。賢い馬なので環境の変化にも対応してくれると思っています。(田中宏明調教助手)

■フォースメン(牡3 岩手・菅原勲厩舎)



デビューは船橋、5戦2勝の成績をもって岩手に移籍してきたのがこの春だったが、そこから3連勝でダイヤモンドカップを制覇し東京ダービーにも駒を進めてみせた。そこでの結果は10着とほろ苦いもの。しかし地方競馬所属の3歳馬の中での本馬の位置が決して低いものではないと分かったのは明るい材料と言えた。もちろん、ここまでの3歳ダート三冠路線でのJRA馬と地方馬の「差」を思えば満足はできない。だが陣営も、本馬自身も、そこで立ち止まるつもりは無いはずだ。地元の利もフルに活かして前進を。

前走後はテンコートレセンで調整。追い切りは、相手の方がより動く馬だからね。こちらも悪くなかったと思う。ちょうど良い併せ馬ができました。(菅原勲調教師)

■ミッジーチャンプ(セン3 佐賀・真島元徳厩舎)



©佐賀県競馬組合

本馬の地元佐賀では今年の3歳馬が粒ぞろい。高知や兵庫の遠征先にも強豪がとぐろを巻いているせいで例年なら重賞のひとつやふたつ勝っていておかしくない力量を持つ本馬もなかなかタイトルを獲れずにいる。しかしそんな中でも中長距離に確かな手応えが出てきているし遠征競馬の経験も積みつつあるのは立派な戦いぶりだ。盛岡までの遠征には陣営も懸念がないわけではないようだが暑さが和らいだ岩手の気候が味方になってくれるだろう。久しぶりの佐賀からの遠征馬という点にも注目。

前走の高知でも悪くない走りをしてくれました。飼い食いも悪くないので夏場の遠征も対応してくれると思うし遠征後のデキ落ちもない。初コースがどうか？ですね。(真島元徳調教師)

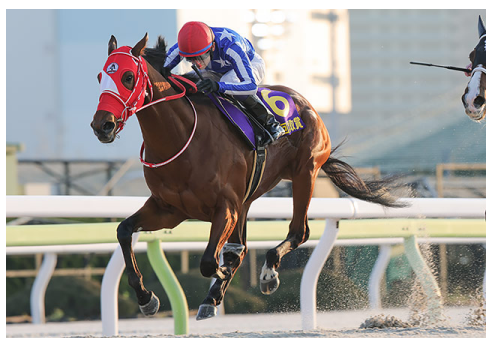
■レジェンドバローズ(牡3 岩手・菅原勲厩舎)



地元岩手のエース格だ。ちょうど1年前、2歳重賞ビギナーズカップを圧勝したものの脚部不安で戦線離脱。しかし今季の復帰初戦となったダイヤモンドカップこそ5着に終わったが、東北優駿、やまびこ賞と重賞を連勝、それもいずれも完勝。完全復活を疑わせるものはなにもない。最終追い切りでも僚馬フォースメンとの併せ馬で終始手応え優勢、仕上がりも上々だ。一昨年のフジユージーンが4着、昨年のリケアカブチーノは6着。地元の大將格といえども苦戦を強いられてきた不來方賞。本馬にその壁の突破を期待したい。

中間は在厩で調整。状態は悪くないと思います。やってみないと分からないが相手は強力。まずはどこまでやれるかですね。(菅原勲調教師)

■リアライズグリント(牡3 JRA・矢作芳人厩舎)



昨秋のデビューから2着が続いた本馬だったが1月に未勝利戦を突破するとその勢いのままに大井での重賞・雲取賞を奪取。その後は羽田盃4着・東京ダービー3着と3歳ダート三冠路線の中心で戦ってきた。振り返ってみればどちらも有力馬同士が一步も引かずにせめぎ合った激しいレース。結果としてタイトルに届かなかったとはいえ本馬の評価が下がる戦いでは無かった事は念頭に置いておきたいものだ。その戦いの中で見えてきた課題もあったようだがあくまで成長の中で越えるべき部分。ここで勝って改めて飛躍を目指す。

■シーズザスローン(牡3 JRA・松永幹夫厩舎)



昨年11月の門別・JBC2歳優駿で4着、続くポインセチアSでは3着だったが、前者で先着された馬たちはその後の全日本2歳優駿でも上位を争っていたし後者の勝ち馬はロックターミガン。3歳ダート三冠路線には今回が初参戦の本馬だが、のちの重賞級のメンバーと互角に戦ってきた実績は再確認しておきたいし、この時期の古馬3勝クラスで通用しつつあるのも決して軽くは扱えないものだ。強いて気にするとすれば前走までのやや間隔を詰めたローテーションだが、それも今の勢いと安定感の現れという評価でいいはずだ。

タフな馬で元気で帰ってきてからもキビキビした動き。使うごとに強くなっている印象があります。初コースですが前に何頭かいるでしょうから戦いやすいのでは。(木戸克征調教助手)

■サスケベラ(牝3 岩手・新田守厩舎)



やまびこ賞で7着、前走のひまわり賞でも7着。着順は変わらないが勝ち馬との差は詰めており、ひまわり賞時の「見どころ」で触れたように状態面で上昇感・距離自体は敗因ではないという陣営評価はその通りだった。一方で現時点での重賞級との差が目に見える形になったのも確かという他はない。今回は相手関係も大幅に強化されるだけに厳しい戦いが予想されるが、岩手での自己条件では崩れていない馬、ここでも奮闘を期待したい。

夏もあまり苦にせず、状態面は変わりはないです。ただここは相手が強力ですからね。（新田守調教師）

■ロックターミガン(牡3 JRA・石坂公一厩舎)



芝からダートに転じて一変…はもはや珍しいパターンではないとは言え、OP特別・重賞とあっさり連勝してしまったのだから本馬の能力の高さは明白。羽田盃での2着、続く東京ダービーでの4着はリアライズグリントに加えて同型フィンガーの存在も影響した印象があり、実際、京浜盃ではそのフィンガーを退けているのだからこの二冠の結果だけで悲観するのは早計。一方で距離が伸びるにつれて差が広がっているのも確かで、そこが現時点で克服すべき課題になりそう。ここでその手応えを得ることができれば将来の展望も大きく広がる。

前走までコンスタントに戦っていたこともあり終わってみれば疲れもあったのかも。夏を越してリフレッシュできたし成長も感じます。暑さもあまり気にならない馬です。（近藤充調教助手）

■メイショウコマチ(牝3 JRA・千田輝彦厩舎)



ここまで4戦のキャリアは出走馬中最小。加えて重賞も初挑戦。御簾の向こうでヴェールに包まれた存在…という言い過ぎか。4戦3勝の成績、それも既に古馬との戦いを経験しているのはアピールポイント。一方で、過去2年の不来方賞にも同様の戦績の馬が参戦してきたが結果は苦戦に終わっている。あくまで過去データの見える方ではあるが重賞出走経験、できればそこで上位の経験が欲しいと感じるのは確か。とはいえ陣営が慎重にレースを選んで育ててきて、そして5戦目にして重賞の舞台に立つに至った馬だ。軽視は禁物。

レパードSも考えましたが鞍上が盛岡が良いのではということでの選択。終いのキレは牡馬に入っても通用すると思うので、思う存分走ってほしいね。（千田輝彦調教師）

■レノヴァティオ(牡3 岩手・瀬戸幸一厩舎)



「ここまで22戦して1勝」と書くとおや？と感じるが「22戦して掲示板を外したのは3回だけ」と表現すれば本馬の堅実さが見えてくるというもの。岩手でも転入当初は5着が続いたのがいまや重賞でも2着に食い込めるほどで、本馬なりの上昇感、成長感は評価できる。その2着のやまびこ賞ではレジェンドバローズから9馬身差で、それはここに入って楽観できる材料ではないのは確かだとしても、今回の戦いはきっとこの馬の成長を後押ししてくれるだろう。

相手なりに力を出してくれていますね。間隔が少し開いたけども状態面は良いんじゃないかと思う。今後のためにも良い経験になれば。（瀬戸幸一調教師）

■不來方賞／過去2年の優勝馬



2025 優勝／ナルカミ

鹿毛 牡3歳

父／サンダースノー

母／オムニプレゼンス（母父ディーピンパクト）

生産／日高・ダーレー・ジャパン・ファーム有限会社

馬主／ゴドルフィン

調教師／田中博康 騎手／戸崎圭太



2024 優勝／サンライズジパング

鹿毛 牡3歳

父／キズナ

母／サイマー（母父Zoffany）

生産／安平・追分ファーム

馬主／（株）ライフハウス

調教師／音無秀隆 騎手／武豊

文・特記無き写真／横川典視

JRA所属馬写真提供／JRA

佐賀所属馬写真提供／佐賀県競馬組合

JRA所属馬コメント協力／グリーンチャンネル